学習内容報告書 フォーマット

学校名	唐津市立佐志小学校
授業者	山口拓也、山﨑円

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

提案！〇〇〇な佐志の海大作戦！

1-2. 学年

５年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、特別活動/学校行事（遠足・旅行的行事）

1-4. 単元の概要

春の遠足で訪れた相賀の浜や学校敷地内を流れるどんどん川の漂着ごみの清掃活動を通して、児童に身近な佐志の海が汚れている現状に目を向け、「もっときれいな佐志の海にしたい」という思いを持って、海岸の清掃、漂着物の調査、シュノーケリング体験などを行い、調べたことを整理し、きれいな海にするための方法を考えてきた。その一方で、海の質問会での学びや、カサゴの稚魚放流、地引網体験を通して、佐志の海は魚が育つためによい環境なのだろうかということにも、児童の関心を向かわせていった。

こうした２つの視点を絡めながら、自分は佐志の海をどのような海にしたいか、そのためにどのようなことをすればよいか、ということを考えてまとめたことを発表する「意見発表会」を、保護者や学習に協力していただいた地域関係者に向けて行った。また、この学習を社会科「水産業の盛んな地域」や「わたしたちの生活と環境」、家庭科「食べて元気に～お魚教室～」の単元とも関連付けることができた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

児童が、自分自身が生活する身近な地域のもの・こと・人とのつながりを実感したり、地域を誇りに思い大切にしようとする心情を持ったりすることが、社会と主体的に関わり、創造していこうとする意識の基盤になると考える。そこで、海と深く関わってきた佐志校区の、地域素材・人材を積極的に活用した、総合的な学習の時間と学校行事（遠足・旅行的行事）を関連付けたカリキュラム・マネジメントと授業実践を行えば、児童が地域を誇りに思い、大切にしようとする意識を高めることができるであろう。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

(1) 身近な海の環境について調べたい事柄を見つけたり、追究したい課題を設定したりする力。【知識・技能】
(2) 調べ学習を通して得た情報から、身近な海の環境を生かしたり改善したりしながら水産業に関わる人々の生き方などに魅力を感じたり、それを他者へ伝える方法を考えたりする力。【思考力・判断力・表現力】
(3) 身近な海の環境に関心を持ち、進んで学習に取り組み、積極的に発信しようとする力。【向かう力】

1-7.　単元の展開（総合/４０時間＋学校行事/１２時間）

時数	学習活動・主な内容	※教師の指導 / 主な評価 ☆外部連携 / 使用教材等
行 6	**春の遠足「佐志の海のことを知ろう」** ＜佐賀県水産試験場＞ ・水産試験場の仕事の説明 ・海の生物の幼生の顕微鏡観察 ・アワビ養殖場の見学　・海の生物ふれあい体験 ＜相賀の浜＞ ・漂着ごみ清掃　・海遊び	※遠足はほぼ海沿いの道を歩くので、３年時に学習した海に関わる内容の振り返りをする。 ・唐房漁港　・黒崎神社　・幸多里の浜 ・お魚一番　・カキ養殖の筏 ☆佐賀県水産試験場　所員 ※県水産試験場の見学を通して、佐志や唐津の海で、県と漁業関係者が協働で、育てる漁業に取り組んでいることに気づかせる。 ※相賀の浜清掃を通して、身近な海に大量のプラスチックごみが漂着していることに気づかせる。 ※自然ごみ（木片、竹など）は集めてよいが、持ち帰らないことも伝える。 ※海岸での学習活動に際は、必ずライフジャケットの着用を行う。（以後、同じ）
2	**単元の学習計画を立てよう。**	※遠足時の気づきを、画像を提示して想起させながら、児童の魚が育つきれいな海にしたいという思いを引き出し、学習することがらを「きれいな海」と「魚の育つ海」の２つにしぼらせる。
10	**漂着ごみを調べよう。** ・相賀の浜から持ち帰った漂着ごみの分類 ・結果の整理と気づき（写真とワークシート） **もっと漂着ごみを調べよう。** ・佐志人工浜の漂着ごみ清掃と分類 ・結果の整理と気づき（写真とワークシート） ・２つの結果から、分かったこと、思ったこと、もっと調べたいことを、ワークシートにまとめる。 ・調べ方ごとのグループワークとふり返り	※ごみを分類するときの視点を明確にする。 ・アルミ缶　・スチール缶　・空き瓶 ・その他の危険物（ガラス、金属類、他） ・プラスチック・ビニール類 ・その他の燃えるごみ（紙、糸、網、他） ※結果を整理するときの視点を明確にする。 ・重さではなく量（ボランティア袋いくつ分）で表し、グラフ化することを確認する。 ※もっと調べたいことの調べ方についても、見通しを持たせる。 ・図書室で　・パソコン室で　・質問会で ※質問会でたずねるグループは、質問事項を事前に整理してＧＴに届ける。 ☆「ラブアース・クリーンアップ」海岸清掃ボランティア活動への参加呼びかけ。 （６月第４日曜に全国一斉実施。子どもクラブ単位での参加が多いが任意）

2	**「きれいな佐志の海」を考えるために、「海の質問会 part１」を開こう。** ・ＧＴへの質問と回答 ・ＧＴからの回答に対して再度の問い返し ・水質検査実験 ・質問会後の気づきとふり返り	☆ＧＴ：県玄海水産振興センター 三戸谷さん ※プラスチックごみの問題は世界的な問題であり、出さない手立てが必要であることに気づかせる。 ※水質検査の実験を通して、プラスチックごみの問題を別にすれば、佐志の海はきれいであること、しかし、魚が育つにはきれいすぎることを押さえて、魚が育つゆたかな海について調べたい意欲を高める。
2	**稚魚放流をして、佐志の海の魚を増やそう。** ・カサゴ（又はクルマエビ）の稚魚を放流 ・指導員さんの説明と児童からの質問 ・	☆県玄海水産振興センター指導員 増田さん、ＪＦ佐賀玄海職員、他 ※稚魚放流の時期は、唐津湾の海底を耕す時期でもあることを知り、魚の育つ栄養分を海中にまき散らすためであることに気づかせる。
行 6	**宿泊訓練で海を楽しもう。** ・シュノーケリング体験 ・ストーンアート体験 ・カッターボート研修	☆佐賀県波戸岬少年自然の家指導員、カッターボート指導員 ※シュノーケリング体験では、磯浜で泳いだり磯の生き物を観察したりする。この磯浜で拾った丸石を持ち帰り、アクリル絵具で着彩して置物を作るストーンアート体験を行う。カッターボート研修では、波戸漁港の湾内で２０人乗りカッターを力を合わせて漕ぐ体験を行う。こうした海で遊ぶ体験を通して、海への一層の親しみを感じさせたい。
6	**佐志の海で働く人々の挑戦について調べるために、「海の質問会 part２」を開こう。** ＜事前学習＞ ・１学期の学習のふり返り ・分かったこと、思ったこと、質問したいことを整理して、ワークシートにまとめる。 ＜ＧＴの講話＞ ・イワシ漁から育てる漁業（栽培漁業）への転換 ・カキとワカメの養殖 ・魚の育つ環境づくり（海を耕す、魚礁設置、七山の植樹、海岸清掃） ・ＧＴ（坂本さん、増田さん）への質問 ＜事後の学習＞ ・分かったこと、思ったこと、さらに質問したいことを分類・整理して、ワークシートにまとめる。	☆ＧＴ　漁師 坂本春也さん 　　県水産振興センター 増田さん ※これまでの学習の画像を提示しながら、佐志の海で働く人々が、新しい漁業（養殖、栽培漁業）に挑戦していることに気づかせ、２学期の学習への意欲を高める。 ※質問項目は整理して、ＧＴへ事前に届ける。また、ＧＴ２名の役割分担や、児童への提示資料作成のために、事前打ち合わせを行う。 ※「漁業カレンダー～坂本春也さんの１年～」や現場の写真などを提示することで、児童の理解を深めたい。 ※ここでの分類･整理した項目立てが､｢意見発表会｣へとつながってくることを意識しておく。 ≪例≫・育てる漁業（養殖） 　　・育てて獲る漁業（栽培漁業）

	・さらに質問したいことを整理して、代表児童がＧＴへインタビューを行い、後日伝える。	・魚の育つ環境をつくる ・きれいな海を守る　　など
3	**地引網体験をしよう。**	※「海の質問会 part２」で学んだ二艘ごち網漁などを想起させながら、２艘の船で魚を網の中に追い込む様子を見学させる。 ※海の活動なので、海岸清掃の時間も取りたい。
13	**学んだことをまとめて、発信しよう。** ・これまで調べてきたことの中から、自分が最も伝えたいことを選び、グループを編成して「〇〇〇な佐志の海」とラベリングする。 ・だれに伝えたいかを考え、相手に合ったまとめ方（伝え方）を話し合って決める。 ・自分たちが決めた方法でまとめていく。さらに調べたいことがあるときは、図書、インターネット、インタビュー、手紙等、これまでに学んだ手法を用いて調べ直す。 ・「もっと〇〇〇な佐志の海」にするためのアイデアについて考え合う。 ・グループ間で「提案」部分だけを取り出して発表会を行い、提案内容をよりよいものにする。 ・伝えたい相手を招いて「意見発表会」を行う。	※伝えたいことを決めるときには、その根拠を明確にさせるために、自分の驚きや感動をふり返らせる。 ※様々な伝える方法があることに、他教科の学習やこれまでの取組を想起させて気づかせる。 ・プレゼンテーションソフトを使って伝える。 ・新聞やポスターにまとめて伝える。 ・ＴＶ番組風にまとめて伝える。 ※これまでの学習のふり返りの中で書いている課題意識をもとに、提案内容を考えさせる。 ※伝えたい相手ごとに発表の場を設ける。 ☆伝えたい相手 ・保護者、お世話になっている地域の方 ・ＧＴの坂本さん、増田さん、三戸谷さん
2	**「海の環境」学習のふり返りをしよう。**	※これまでの学習の画像や学習成果物を見せたり、関わった方々の感想文や手紙等を紹介したりすることで、学んだことや学び方をふり返りながら、学びの意味づけ価値づけを行う。

2.　学習活動の実際

2-1.　単元における位置づけ

単元　５２　時間中の　３６　時間目

2-2.　本時の目標

これまでの調べ活動で得た情報の中から他者へ発信したい情報を選択し、相手に応じた伝え方を考えることができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	形態	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1　これまでの調べ学習で分かったことや自分の考えを振り返る。	CW	○　調べ活動の様子を視覚資料で提示したり、児童のふり返りを引用したりすることで、学習して分かったことだけでなく、感じたことや考えたこと等も想起できるようにする。
2　本時のめあてを立てる。		○　国語科の学習で提案文を書いた成果や、４年時の「佐賀・唐津のすごい！」をパンフレットで紹介した学習を振り返らせ、佐志の海について学んだことを他者へ伝えたいという意欲を持たせる。
めあて　調べて分かったことや考えたことを「だれに・どうやって」伝えるか 考えよう。		
3　これまでの調べ学習で分類・整理したことの中から、他者へ伝えたいことがらを選択する。	PW	○　海の環境のこと、育てる漁業（養殖）のこと、育てて獲る漁業（栽培漁業）のことの中から他者へ伝えたいことがらを選択させ、自分が感じた魅力等を、選択の根拠として記述させる。 ことがらの選択については、事前に簡易的な調査を実施しておくことで意識づけを図る。
4　同じことがらを選択した友達とグループを組み、誰にどのような方法で伝えるかを考える。	GW	○　ことがらを伝えたい相手に対して相応しい伝え方を、これまでの学習や取組を想起させながら考えさせる。 ・プレゼンテーションソフトを使って伝える。 ・新聞やポスターにまとめて伝える。 ・ＴＶ番組風にまとめて伝える。 ○　朝の学習タイムや授業参観日、学習発表会等の伝える場を例示し、具体的に考えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力】 B　調べたことがらを伝えたい相手を考え、相手に応じた表現方法を記述している。（ワークシート） ●　伝えたい相手にどのような場で伝えることができるか、考えるよう促す。

5　本時の学習を振り返る。	PW	○　「ふり返りのポイント」を提示し、本時のふり返りを記述させる。 ＜ふり返りのポイント＞ ・今日の学習で考えることができたこと。 ・友達のよかったところ、なるほどと思った考え。 ・次の時間に取り組みたいこと。
6　次時への見通しを持つ。	CW	○　数名の児童にふり返りを紹介させ、本時の学習の価値づけを行い、次時の活動への意欲を喚起させる。

3.　今回の活動の自己評価

・これまで表面的にしか見ていなかった海や水産業に対する児童の理解が深まり、海や海に関わる人や仕事に対する親しみなどプラスのイメージが高まった。
・漂着ごみの分類やさらに詳しく知るための調査活動など、児童の主体的に学ぼうとする姿が見られた。
・初めての学習内容を単元化することについて、当初の見通しと授業実践が違ってきたことがいくつもあったが、このような中で試行錯誤を繰り返したことで、地域の教育資源を新たに発掘することもできた。

4.　今後の課題

・３学期間にまたがる学習となったことで、児童の学習へのモチベーションを維持することが難しかった。
・今年度は、カリキュラムを移行する（「福祉」単元を５年から４年に移す）１年間として、「海の環境」単元４０時間、「福祉」単元２５時間で実施した。来年度は、「海の環境」単元を６５時間で行うことになる。時数増加分の新たな学習内容を含め、「課題の設定」⇒「情報の収集」⇒「整理・分析」⇒「まとめ・表現」という探究的な学習の過程を繰り返しながら深めていくカリキュラム開発を行っていきたい。
・上記の理由から実施できなかった、海の環境を学習して考えたことを近隣の小学校と交流し合う「交流発表会」を来年度は実施することで、児童の学びの幅を広げたい。
・二度目の漂着物調査の際には、ライフジャケットの借用が間に合わないままの活動となった。学校所有のライフジャケットの必要性を強く感じ、２年計画で２学級分５０着を揃えることにした。
・今年度の授業に際してお世話になった地域の方々を招いて、年度末(R2.2.26)に海洋教育関係者会議を開いた。その中で、「カキの海水浄化力の実験」、「ワカメ養殖体験」、また、校区内の幸多里浜での「地引網体験」を来年度は行ってみようということが確認できたので、カリキュラムの中に位置付けていきたい。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・特になし

※実施した単元ごとに作成してください。
※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。
※基本レイアウト
　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm
※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。
　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1
※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。